

オーブンラン1年生 算数
「10よりおおきいかず」
～なにが できるかな?～

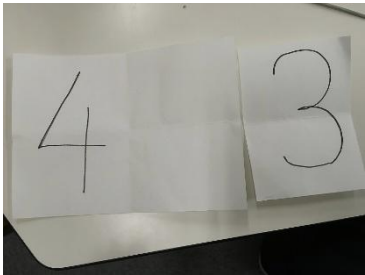
2種類の箱があります。



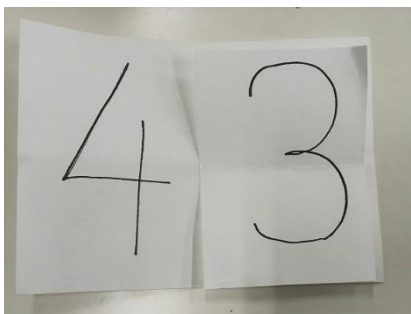
中には・・・



片方の箱には、大きい紙。
もう一方の箱には、小さい紙。



これらを、がっちゃんこ!
すると・・・!



2ケタの数字になります。

今回は、これらの箱から引いた数をおはじきや棒、ブロックで作ります。

なにが できるかな? わくわく!

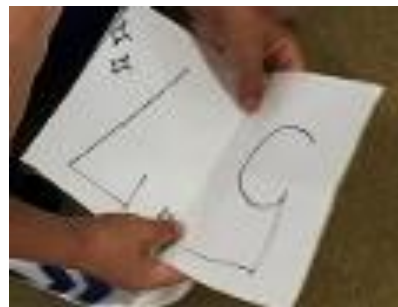
「僕は、49だ!」



「え? ぼく?」



「57だよ!」



みんな、意気揚々と
作り始めます。

紙の上に、
見た瞬間にわかるように作ろう！
と投げかけました。

床に広げて思うように活動できるのが
オープンスペースの良さです。

ある女の子は、棒で挑戦しています。



まだ、一の位・十の位という言葉は
勉強していませんが、
10集まったら
輪ゴムやケースでひとまとめにし
束ねていないバラバラと区別します。



「できた！」
と、ある女の子の声。



どれどれ・・・



「10が5つで50と、ばら8本で58！」

「ぼくもできた！」
「わたしも！！」



「10が〇ことばらが〇こで・・・」
みんな、解説付きで教えてくれます。

「先生、次のくじひいてきていい!？」
「次は何が出るんだろう！」

わくわく感と「わかる！」という充実感で
子どもたちは活動にのめり込んでいきます。



この男子は、卵パックと
ブロックを使ってまとめたようです。

こんな発見も。
「先生！これ！！」



「10って、0がつくから
ばらのお部屋が空っぽになっちゃった！」

位のことを学んでいない子どもにとっては
衝撃的だったようです。

言葉で説明できることは
論理的な思考を育てるという面で
非常に大切です。

形式的であったり曖昧な理解では
自分の口で説明しようとしても
なかなか言葉が出てきません。

また、自分の言葉で
説明できるようになるためには
実際に何度も体験・経験することが
おおきな役目を果たします。

そうしたことのためにも、
具体操作活動は一役買っています。

意味理解を深めるためにも、
言葉での説明を大切にしています。